

「大山蒜山地域ビジョン」
新たな魅力の創生に向けて
～ つなぐ、つながる ～
地域力を活かした多様性あふれる公園づくり

平成 27 年 11 月 11 日

大山隠岐国立公園 大山蒜山地域連絡協議会

目次

目次	2
はじめに	4
第1章 大山隠岐国立公園大山蒜山地域の特徴	5
1. 大山隠岐国立公園の特徴	5
2. 大山蒜山地域の特徴	7
3. 大山蒜山地域内の各地域の特徴	13
4. 大山蒜山地域の「保全と利用」の取組の経緯	14
第2章 大山蒜山地域の現状	18
1. 自然環境に関する現状	18
2. 利用の質に関する現状	20
3. 利用環境に関する現状	22
4. 連携に関する現状	23
5. 協働に関する現状	24
第3章 大山蒜山地域の課題	25
1. 自然環境に関する課題 -生態系及び生物多様性の劣化が進行	25
2. 利用の質に関する課題 -地域の資源が十分に活かされていない	25
3. 利用環境に関する課題 -利用施設の整備・管理が十分ではない	26
4. 連携に関する課題 -利用拠点の分断による一体性の欠如	26
5. 協働に関する課題 -各地区間の協働体制が十分ではない	27
第4章 共通理念	28
第5章 基本方針	29
1. 守る -生態系及び生物多様性の保全・復元・維持を図る	29
2. 活用する -地域資源を活かした質の高い利用を促進する	29
3. もてなす -快適な利用環境の整備を推進する	30
第6章 対策の方向性	31
1. 守る -生態系及び生物多様性の保全・復元・維持を図る	31
2. 活用する -地域資源を活かした質の高い利用を促進する	32
3. もてなす -快適な利用環境の整備を推進する	33

第7章 各主体の役割	34
1. 国の役割	34
2. 地方公共団体の役割	34
3. 学識経験者の役割	35
4. 各種協議会、NPO法人、民間企業、地域の事業者等の役割	35
参考:ビジョン作成に向けた意見交換会	36
1. 意見交換会の開催	36
2. 意見交換会の結果	37

はじめに

大山隠岐国立公園「大山蒜山地域」は、中国地方最高峰の大山や蒜山三座を中心とした山岳地形と、その山麓に広がる西日本最大のブナの天然林や草原で構成され、豊かな生態系及び生物多様性ととも、我が国を代表する傑出した自然景観を有する国立公園です。また、「伯耆三嶺^{ほうきさんれい}」と称され、修験道の聖地である大山、船上山、三徳山は、古くから山岳信仰が盛んであり、多くの人々に利用されてきた歴史ある地域です。

しかし、近年、生活様式の変化に伴う草原の縮小、盗掘による希少種の減少、セイタカアワダチソウなどの外来植物の繁茂、ニホンジカ・イノシシの生息数の増加など、同地域の貴重な自然環境を構成する生態系及び生物多様性の劣化又はその恐れが懸念されています。また、利用のニーズや利用形態の変化に伴い、同地域を訪れる利用者の数は減少傾向にあります。生態系及び生物多様性の劣化は地域の魅力を低下させ、さらなる利用の減少を招きます。そして、利用の減少は、自然環境の保全に対するインセンティブをも低下させ、さらなる劣化を招きます。

このような負の連鎖が進まないよう早期に正の連鎖の構築を図り、本地域の優れた自然と歴史・文化をより良い形で将来に継承していかなければなりません。そのためには、同地域で活動が続いている国、県、市町村、NPO、民間企業及び地域の関係団体などの多様な主体が、地域の将来像としてのビジョンを共有するとともに、ビジョンの実現に向けて関係者が協働した取組を進め、さらなる魅力向上を進めていく必要があります。

以上を背景として、平成 27 年 2 月、当該地域の多様な主体が参画する「大山隠岐国立公園大山蒜山地域連絡協議会」が設立されました。

本ビジョンは、同協議会において、大山を取り囲むように位置する大山蒜山地域の特色ある 5 つの地域の個性をさらに磨きあげ、それらの取組や実施主体の連携を図ることで、地域と地域、人と人を積極的につなげていくことを目的として策定したものです。

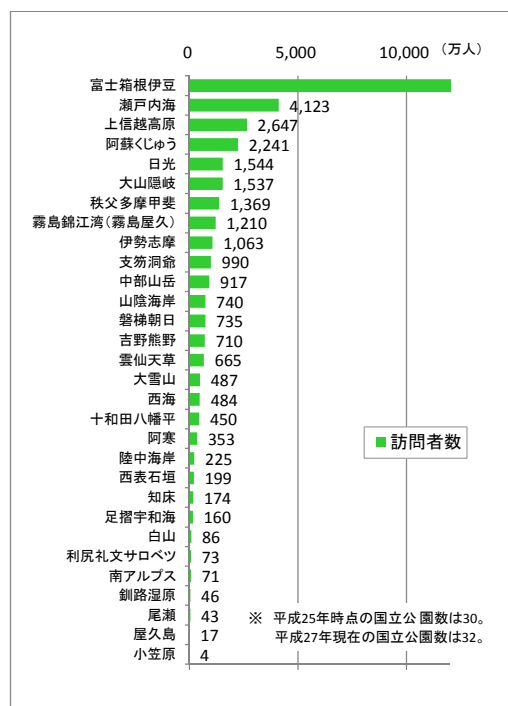
第1章 大山隠岐国立公園大山蒜山地域の特徴

1. 大山隠岐国立公園の特徴

我が国を代表する火山景観を有する大山一帯は、昭和 11 年 2 月 1 日に「大山国立公園」として指定されました。その後、昭和 38 年 4 月 10 日に蒜山地域、隠岐島、島根半島及び三瓶山が追加指定され、その際「大山隠岐国立公園」と名称を変更し、平成 14 年 3 月 26 日に毛無山及び宝仏山一帯を、平成 26 年 3 月 19 日に三徳山地域を編入して現在に至っています。

大山隠岐国立公園の特徴は、公園区域が広範囲にわたり、中国地方の最高峰の大山、大山に連なる山々の雄大な火山景観、沿岸から島しょ部にわたる変化に富んだ海岸景観、人々の営みと共に育まれてきた牧野景観、歴史や山岳信仰に特徴付けられる文化景観と、多様な自然環境と歴史・文化を包含している点にあります。本国立公園の平成 25 年の年間利用者数は 1,537 万人ですが、これは全国 32 ヶ所ある国立公園のうち第 6 位となっています。

出雲国風土記の冒頭に登場する「国引き神話」にある大山（火神岳）と三瓶山（佐比売山）を杭にして島根半島を新羅等から引き寄せたという壮大なストーリーは多くの人々に知られており、こうした神話に関連する場所が各地にあることは、他の国立公園にはない特色です。こうした特徴を踏まえ、大山隠岐国立公園のテーマとして、「神話がつなぐ山と島 - 神在ります山と連なる火山、太古の記憶が息づく島 -」が掲げられています。



国立公園利用者数（平成 25 年）

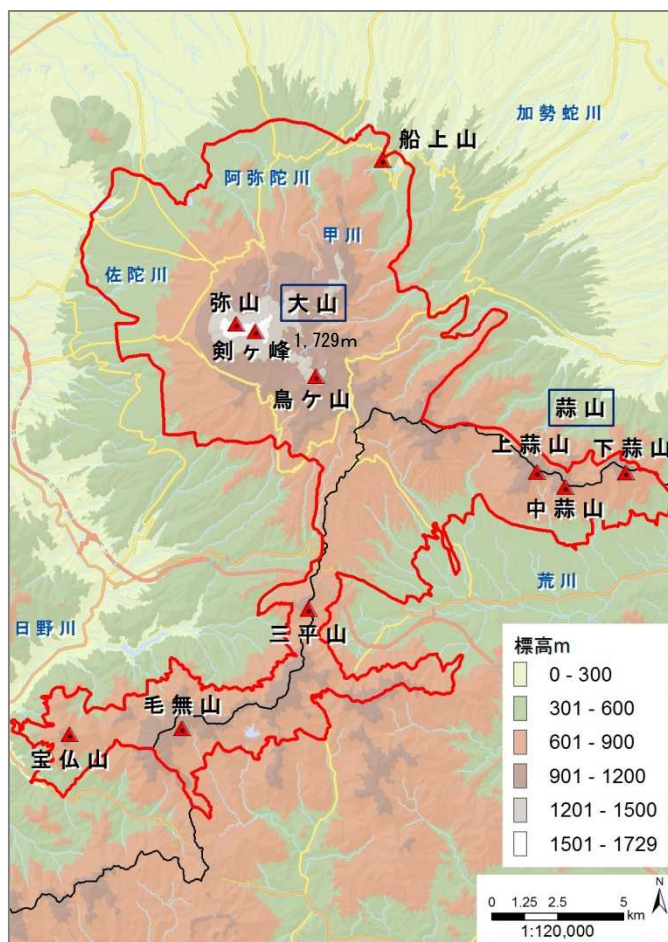
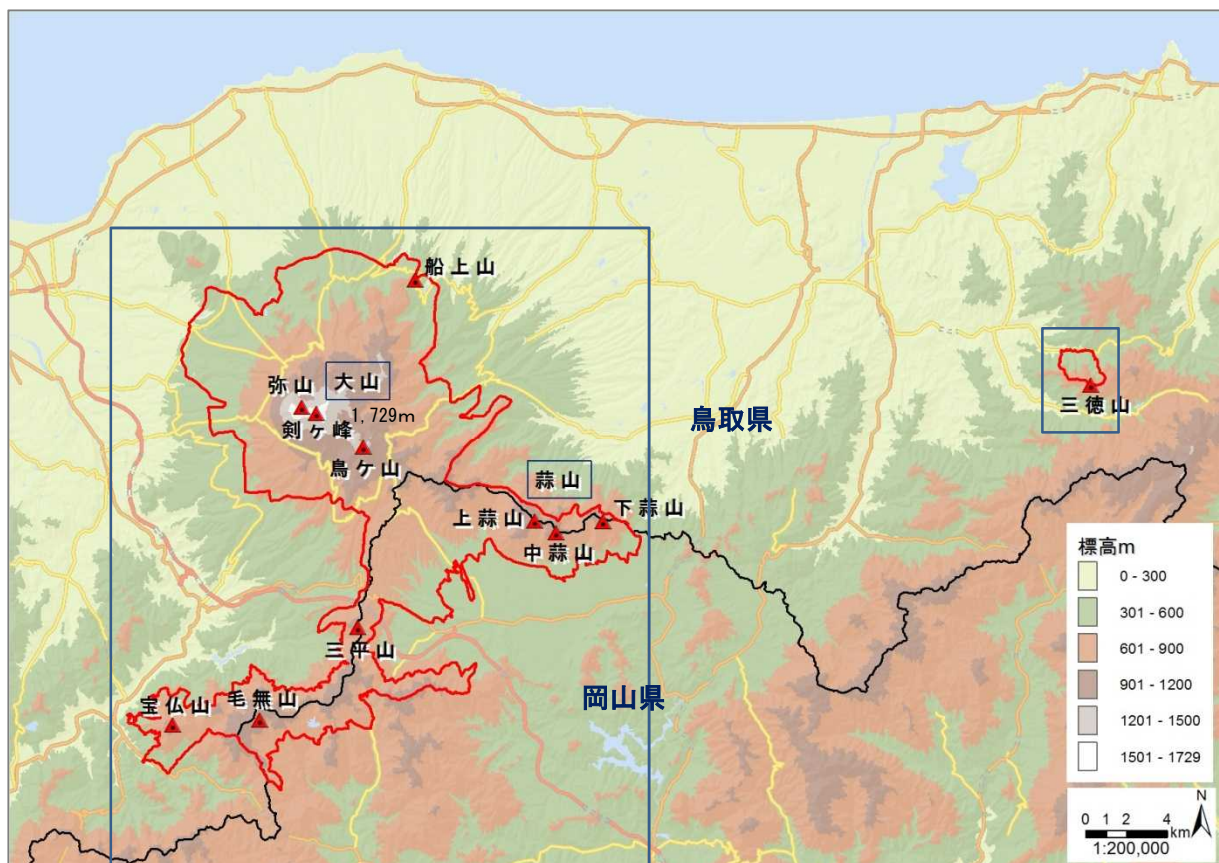
出典：環境省 自然保護各種データ

<http://www.env.go.jp/park/doc/data/>

● 大山隠岐国立公園のあゆみ

年 号	大山隠岐国立公園のあゆみ	周辺の関連事項
昭和 6 年	国立公園法制定	
昭和 11 年	「大山国立公園」として誕生（2 月 1 日）	
昭和 38 年	蒜山地域、隠岐島、島根半島、三瓶山が追加指定され、「大山隠岐国立公園」に名称を変更（4 月 10 日）	
平成 14 年	毛無山地域（毛無山および宝仏山一帯）が追加指定（3 月 26 日）	
平成 26 年	三徳山地域が追加指定（3 月 19 日）	三朝温泉開湯 850 年
平成 28 年	大山隠岐国立公園指定 80 年（2 月 1 日）	山の日制定（8 月 11 日）
平成 30 年		大山寺開創 1,300 年

- 大山隠岐国立公園のうち大山蒜山地域（本ビジョンの対象範囲）



(上)大山隠岐国立公園 全体図

(左下)大山蒜山地域 拡大図

(右下)三徳山地域 拡大図

出典:国土地理院 基盤地図情報 DEM データ

(作成:株式会社自然産業研究所)

2. 大山蒜山地域の特徴

大山蒜山地域は、本国立公園全体のシンボルでもある中国地方の最高峰「大山」と、その周辺の草原景観が広がる蒜山地域や毛無山地域、照葉樹林から落葉広葉樹林まで連続した自然植生が残る三徳山地域から成り、大山隠岐国立公園全体の利用者の約3分の1程度の465万人（平成25年）が利用する地域です。

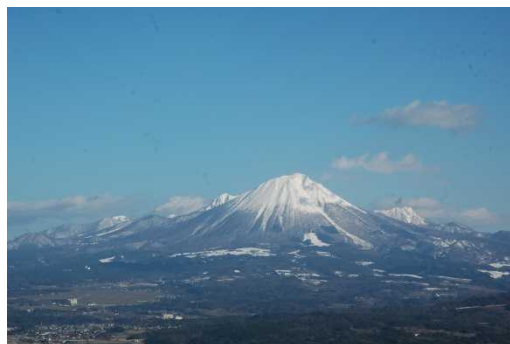
(1) 地形

大山は標高 1,729m（剣ヶ峰）を誇る中国地方最高峰であり、三角点のある弥山から船上山を含む大山周辺の地形は、大別して2回の火山活動により形成されました。はじめの噴火は 180 万年前から 50 万年前にかけて起こり、このとき粘性の少ない輝石安山岩が噴出して緩やかな裾野が形成されました。それが古期大山と呼ばれる矢筈ヶ山、勝田ヶ山、船上山などの山々です。2回目の噴火は約2万年前におこり、このとき古期大山の山頂を突き破って粘性の強い角閃安山岩が噴出し、日本最大の溶岩ドームと言われる溶岩円頂丘を形成しました。

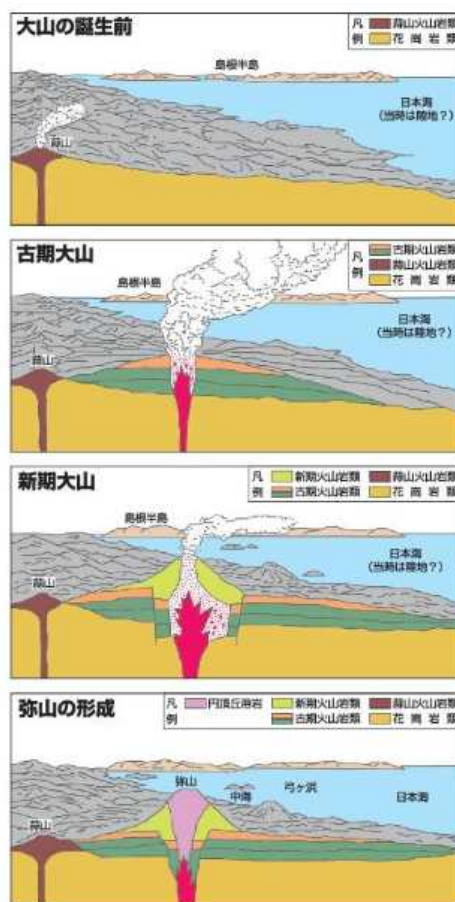
この形成過程から、大山は緩やかに広がる広大な裾野と急傾斜をなす中央部という山容が形成され、頂上部は北と南に崩れ、延長約2kmにも及ぶ北壁、南壁となり、沢からの土砂崩落等浸食を繰り返し現在の形となりました。このため、西からは伯耆富士と称されるおだやかな山容が、南北からは岩壁が立ちのぼる荒々しい山容が望め、望見する方向によって様々な表情を楽しめる点が大山の魅力の1つになっています。

蒜山は、大山の南東へ連なる上蒜山、中蒜山、下蒜山の蒜山三座とその南に広がる高原地帯です。大山と一連の山地を形成する新生代の安山岩より古い火山群ですが、浸食が進み放射状谷が発達し、火山の原型はかなり崩れています。

かつて大山の噴火により日野川水系の西側がせき止められ、蒜山高原一帯は湖の時代があったことから、珪藻土の産地として有名です。その後、浸食などにより旭川水系として流れ、現在は盆地となっています。



母塚山から見た大山(伯耆富士)



大山の生成過程

船上山は、古期大山の溶岩流の堆積により形成された台地で、この台地を取り囲む延長2kmの岩壁は古期大山の地形的特徴を顕著に表しています。また、浸食によって屏風岩の断崖が形成されました。

毛無山は、蒜山高原南方に位置する中国山地の中で最も高い山で、登山道脇に見られる風化作用から取り残されたコアストーンは特徴的な景観です。

三徳山は、大山、船上山とともに^{ほうきさんれい}伯耆三嶺と称されており、大山、蒜山、三瓶山と同様の火山形態の山です。白亜紀に貫入してできた花崗岩の基盤の上に凝灰角礫岩・火山砕屑岩が層をなし、さらに最下部からマグマが突き破って最上部に噴出し安山岩となっています。

また本地域は、日野川、旭川の2つの流域の源流となっています。大山、船上山、三徳山は日本海に流れ込む日野川流域及び天神川流域に位置し、蒜山、毛無山は瀬戸内海に流れ込む旭川流域に位置します。特に大山は海と山が近く、水の連環を感じることができる地域です。

(2) 植生・野生生物

大山の標高800mから1,300mには西日本最大のブナ林が広がり、オオルリ、キビタキ、ゴジュウカラ等、約130種の野鳥が確認され、ブナを食樹とするフジミドリシジミ、ウラミスジシジミ（ダイセンシジミ）等、約120種の蝶が確認されています。山頂付近には、国の特別天然記念物であるダイセンキャラボクの純林や風衝草原が広がるほか、ツガザクラ、イヨフウロ等の高山植物が生育し、最近ではヒメボタルの生息が確認されています。また、西日本では数少ない湿原が、鏡ヶ成等で見られます。

蒜山地域では、蒜山山頂部にはササの草原及びブナ林が、山麓部には、草原景観やコナラの二次林が広がります。蒜山三座の南方、標高500mから600mにある蒜山高原では、昔から放牧と採草に利用するために半自然草原が形成され、現在も地域の方々に



蒜山の山並み



船上山の屏風岩の断崖



毛無山山頂からの展望



オオルリ



キビタキ

撮影・提供 長尾利宏氏



大山山頂付近のダイセンキャラボクの群落

よって伝統的な火入れ（山焼き）が続けられており、牧歌的な草原景観が保たれ、フサヒゲルリカミキリ、サクラソウ、キキョウなど希少な草原性の動植物の生息・生育地になっています。そのほか、国の特別天然記念物であるオオサンショウウオの生息地もあります。

船上山では3年に1度火入れが行われることで屏風岩岩壁下に草原景観が保たれ、岩場と相まって特徴的な景観を呈しています。岩壁下の草原には、草原性の動植物が多く生息・生育しています。

毛無山では、毛無山から白馬山周辺の標高 800～1,000m 付近に、中国地方では貴重なまとまった面積のブナの天然林が広がり、天然のスギを交えた特徴的な景観が見られます。ブナ林の林床にはチシマザサやヒメモチが生育するほか、クロモジも見られ、日本海型と太平洋型の双方の特徴をもつことが特徴です。なお、チシマザサは毛無山周辺が分布の南限になっています。頂上付近の稜線部にはカタクリの群生地が見られ、山麓部では、草原性の蝶で指定動物に指定されているウスイロヒョウモンモドキが生息しています。

三徳山では、ウラジログシ等の照葉樹林から冷温帯のブナ等の落葉広葉樹林まで、自然林が分断されることなく連続して垂直方向に分布しています。植生が豊かであるため、多くの動植物の生息・生育地となっており、オオルリ、アカショウビン等の鳥類や、照葉樹林に生息する希少な昆虫類の生息も確認されています。



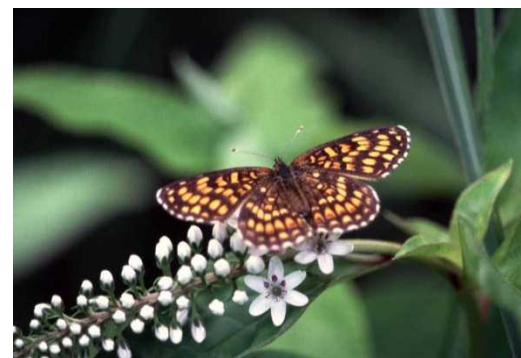
蒜山高原の火入れ(山焼き)



フサヒゲルリカミキリ



サクラソウ



ウスイロヒョウモンモドキ

撮影・提供 松岡嘉之氏



上空からのぞむ三徳山の山肌

● 大山隠岐国立公園の植生分布



(左)大山・蒜山地域

(右)三徳山地域

出典:環境省自然環境局生物多様性センター
自然環境保全基礎調査植生調査
(作成:株式会社自然産業研究所)

(3) 歴史・文化

大山蒜山地域は、「伯耆三嶺」と称され、修験道の聖地である大山、船上山、三徳山を有するなど古くから山岳信仰が盛んで、多くの人々に利用されてきた歴史ある地域です。

大山は、古くは出雲国風土記の冒頭に登場する「国引き神話」にも登場するほか、山岳信仰の霊場として栄え、明治時代までは入山が禁止された聖地でした。その信仰の中心は 718 年開基とされる大山寺で、その他にも、阿弥陀堂、大神山神社奥宮などの国指定重要文化財があります。平安から室町時代には、100 を超える僧坊と 3,000 人を超える僧兵がいたと伝えられており、中心には称徳天皇より大智明大権現の宝号を賜った地藏菩薩が祀られていました。このことから地藏の石仏が「大山道」をはじめ各所に祀られています。

船上山には、隠岐へ配流された後醍醐天皇が、1333 年に隠岐から脱出し伯耆の国の名和長年により迎えられて城郭を構え、政務を執った場所である国指定史跡の船上山行宮跡があります。

三徳山は、山の大半が三佛寺の境内で、国指定史跡及び名勝です。三徳山は 706 年に役行者によって開山され、三佛寺は 849 年に慈覚大師円仁によって寺



三佛寺投入堂(国宝)

号が与えられ、開山から現在に至るまで山岳信仰、修験道の聖地となっています。

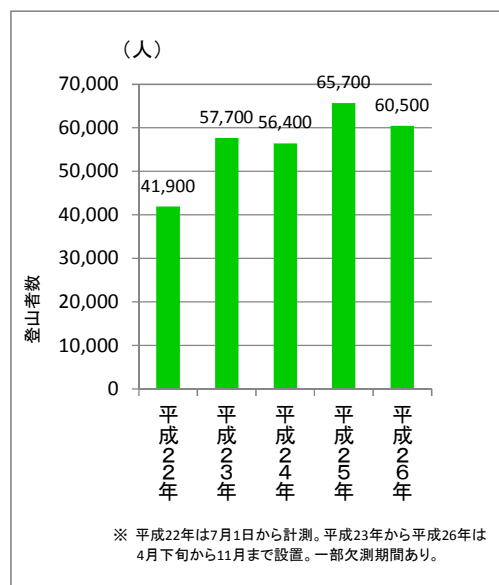
国宝投入堂は中腹の地形変換点の断崖の窪みに浮かぶ類を見ない建造物で、この他にも、地藏堂、文殊堂、納経堂などの国指定重要文化財があります。

(4) 利用

大山は、日本百名山にも指定され、全国から毎年6万人前後の登山者が訪れています。

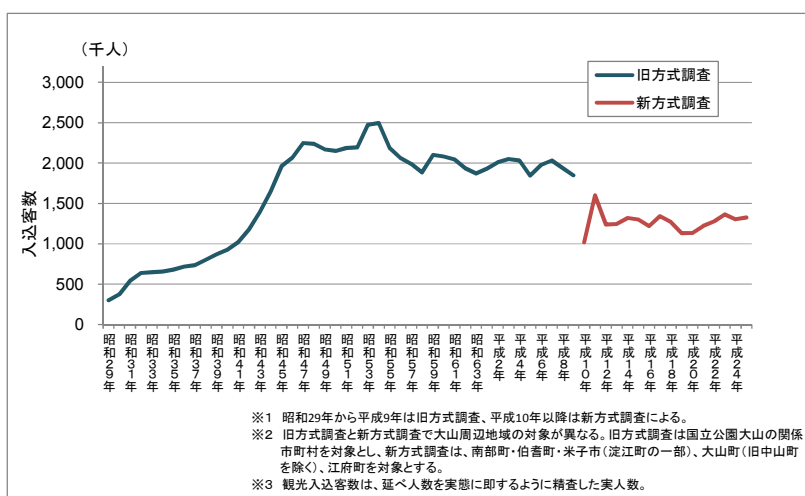
鳥取県による「大山周辺地域の観光入込客数」の調査によれば、大山とその周辺の観光地を訪れる人の数は、昭和11年の国立公園指定後から徐々に増え、昭和50年代半ばには年間250万人にもものぼっていました。大山を訪れた多くの人が、登山やスキーを楽しみ賑わっていました。

しかしその後、訪問者数は徐々に減少傾向となっています。特に、国立公園内の主要施設のある大山寺、桧水高原、鏡ヶ成、蒜山では、平成7年を境に訪問者が大きく減少し、近年は横ばいで推移しています。



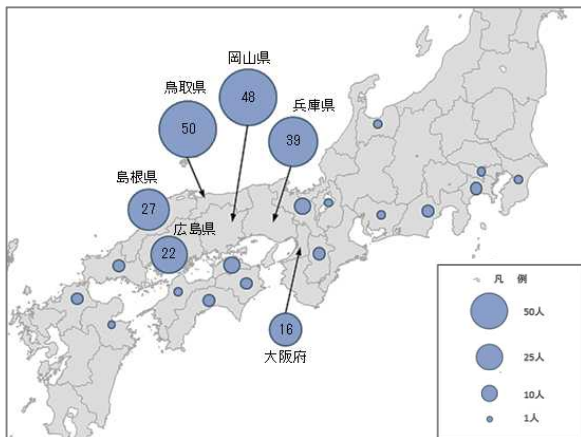
大山登山者数

出典：環境省 大山登山者カウンター
計測期間中分

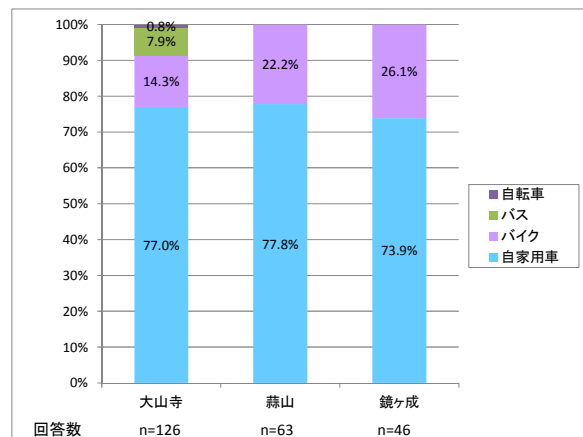


大山蒜山地域を訪れる人の特徴としては、環境省が平成 24 年度に大山蒜山地域にある大山寺、蒜山、鏡ヶ成の 3 か所への訪問者 235 名を対象として実施した利用者アンケート調査の結果から、鳥取県や近隣の岡山県・兵庫県・島根県から自家用車やバイクで訪れる人が多いことが分かっています。

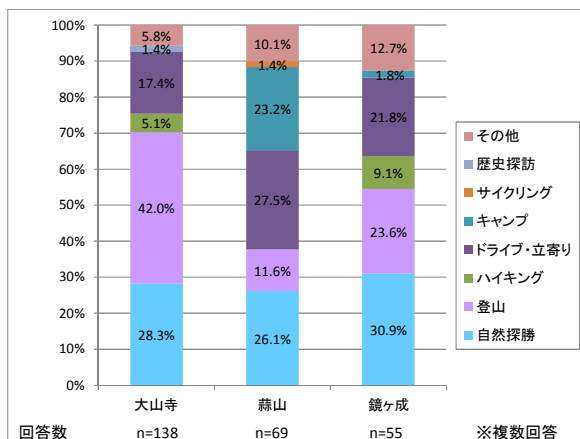
また、来訪者の多くは、自然探勝、登山、ドライブ・立寄りを目的に大山蒜山地域を訪れており、大半が宿泊を伴わない通過型の利用スタイルであることも明らかになっています。



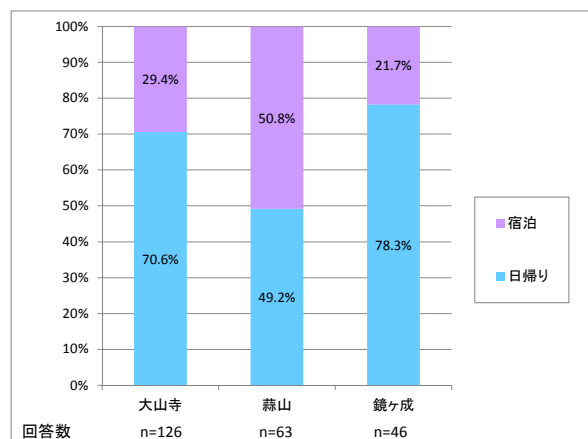
来訪者の居住地



来訪手段



来訪目的



滞在方法

出典:環境省「平成 24 年度大山隠岐国立公園(大山蒜山地域)地域整備基本方針検討業務報告書」
利用者アンケート調査(平成 24 年 11 月 4 日実施)

3. 大山・蒜山地域内の各地域の特徴

大山・蒜山地域には、大きく分けて次の5つの地域があり、それぞれに特徴があります。

(1) 大山地域

特 徴

大山の北壁、南壁の荒々しさと西側から見た秀麗な姿(伯耆富士、出雲富士)。
大山の雄大な自然景観。海と山が近接。西日本最大のブナ林、ダイセンキョロボクの純林等。
大山寺、大神山神社奥宮を中心とする山岳信仰(神仏混合)、地藏信仰。

(2) 蒜山地域

特 徴

火入れ・草刈りによって、地域住民が維持し続けてきた広大な草原景観と貴重な生態系。
霧の発生による、盆地に見られる幻想的な風景。

(3) 船上山地域

特 徴

屏風岩や大山滝をはじめとする雄大な自然景観。
火入れで維持される屏風岩下の草原景観。
かつて後醍醐天皇が執政した地としての歴史ドラマ。

(4) 毛無山地域

特 徴

岡山県と鳥取県の県境に位置することによる、山頂からの360度のパノラマ眺望。
日本海側の気候と太平洋側の気候が会う地でしか見られない、多種多様な生態系。
チシマザサの南限。日本海型ブナと太平洋型ブナが混在。

(5) 三徳山地域

特 徴

照葉樹林から落葉広葉樹林まで連続して分布する自然林、希少動植物の宝庫。
山岳信仰、修験道によって維持されてきた歴史文化・景観。

4. 大山蒜山地域の「保全と利用」の取組の経緯

(1) 大山地域

古来より大山は、山岳信仰を背景とした修験道や地蔵信仰の霊地であり、明治時代まで一般の立ち入りが禁止されてきました。明治中期に入山規制が解除され広く一般に開放された後は、植生調査をはじめとする各種学術調査が相次いで実施され、さらに昭和 11 年の国立公園指定により一般の人々にも認知が広がりました。

第二次世界大戦後まもなく、登山やスキー客が増加し、年間約 30 万人の利用がありました。昭和 26 年に開催された第 6 回国民体育大会登山競技大会を機に、大山地域におけるバスの運行が本格化し、観光客のさらなる増加が後押しされました。その後、現在の大山パークウェイの一部区間として昭和 38 年に大山有料道路（米子・大山線）、昭和 40 年に大山環状有料道路（県道倉吉江府溝口線）、さらに昭和 45 年に大山・蒜山有料道路が順に開通していく中で、昭和 54 年に年間利用者数が 250 万人とピークを迎えました。

利用者数の急激な増加に伴って、大山ではゴミの投棄、登山道崩壊、頂上部の裸地化や崩壊といった危機が顕在化するようになりました。

そのような中、昭和 40 年代から地元住民の呼びかけにより美化活動が活発となっていきました。中心となったのは民間ボランティアによる取組で、「大山の自然を守る会」、「大山をゴミから守る県民運動連絡協議会（現・大山の美化を推進する会）」等が清掃活動を開始し、現在も、毎年春（GW シーズン前）と秋（紅葉シーズン前）に一斉清掃が行われています。

昭和 41 年には全国自然公園大会が鏡ヶ成で開催され、これを機に昭和 49 年「自然保護憲章」が制定されました。昭和 60 年には「大山の頂上を保護する会」が発足し、頂上の崩壊を阻止し植生を復元する「一木一石運動」というユニークなキャンペーン活動がはじまりました。これらの官民協働となった保全活動の成果により、大山の自然環境の危機に



登山客で賑わう大山頂上
（昭和 50 年代後半）

出典：大山の頂上を保護する会
「大山の頂上保護活動 10 年のあゆみ」



「大山の頂上を保護する運動」の看板



「大山の頂上を保護する会」による
植栽活動(平成 19 年)

歯止めがかかり、植生は回復に向かいつつあります。

このような大山方式ともいえる独特のスタイルは全国的にも評価され、いずれの活動も現在まで継続されています。

平成 15 年には第 57 回愛鳥週間「全国野鳥保護のつどい」が大山で開催され、野鳥保護、自然保護の関心が高まってきました。

そのほかにも、横手道上の国有林内のスギやカラマツ等の人工林を間伐し潜在植生に戻すためにブナを植栽する活動や、米子大山線上の大山並木松を林野庁と地元関係団体が連携して保全再生する活動などが実施されています。

最近では秋の一斉清掃に併せて外来種であるセイタカアワダチソウの駆除、鏡ヶ成の湿原再生作業、大山山頂のトイレの汚泥を麓までおろすキャリアダウンや木道の栈木を山頂まで運ぶキャリアアップ等、新たな活動も加わることで活動の範囲が広がっています。

近年の利用者の傾向としては、4月から11月までのグリーンシーズンにおける大山登山者は6万人前後で推移しています。また、境港を発着する国際航路の就航、大型クルーズ船の寄港増加や米子空港へのソウル便就航等の影響により、韓国人観光客を中心に外国人登山者が増加しています。

そのほか大山の地理的・地形的特徴を活かし、日本海から大山山頂までをカヤック・自転車・登山で目指す「SEA TO SUMMIT（シー トゥ サミット）」の実施やアウトドアスポーツを活かして自然を楽しむ「ジャパンエコトラック」の初認定など、新たな利用や取組も進められています。

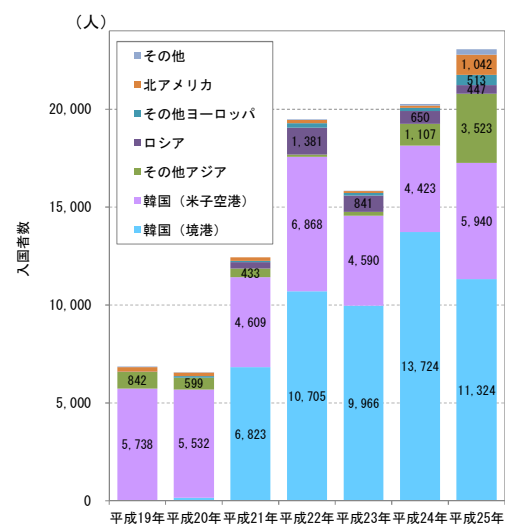
また、平成 25 年には国、県、市、関係団体からなる「大山環境会議」が発足され、「大山さん」の恵みに感謝し、自然・歴史・文化を「守り、育み、活かす」ことを誓う「大山環境宣言」が同年6月に採択され、10月のエコツーリズム国際大会で発表されました。



（上）大山の頂上付近(昭和 62 年)

提供：大山の頂上を保護する会

（下）大山の頂上付近(平成 24 年)



境港・米子空港から入国する外国人の推移

出典：法務省「出入国管理統計表」

http://www.moj.go.jp/housei/toukei/toukei_ichiran_nyukan.html

(2) 蒜山地域

蒜山地域は、5 地域の中では大山地域に次いで利用者数の多い地域で、特に蒜山三座の登山や山麓部の蒜山高原キャンプ場の利用が多くあります。

蒜山地域では、昔から火入れ（山焼き）が毎年春の恒例行事として行われており、地域の人々は山に火を入れることで牧草を育て、家畜の飼料や田畑の肥料として利用してきました。戦後まで、毎年その時期になると火入れされた蒜山の山々には一面土肌が見え、山全体が茶色く見えたと言われています。



火入れ(山焼き)の取組の様子

しかし現在、生活様式の変化や担い手の不足により、火入れが行われている地域は減少しており、一部の地域で文化的・歴史的な重要性から保全の取組が進められている状況です。火入れという人為的な攪乱によって半自然型草原が維持されることから、草原性の昆虫であるフサヒゲルリカミキリ（環境省 RL I 類（CR 種））、サクラソウ（環境省 RL 準絶滅危惧種）の群落といった希少動植物の生息生育地が維持されており、火入れは生態系保全の面からも重要な機能を持っていると言えます。

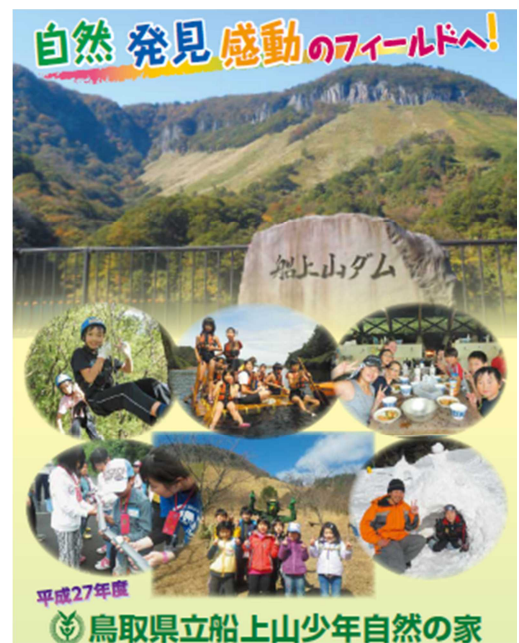
現在は、伝統的に火入れが行われてきた既存の地域以外にも、地元集落と民間のボランティア団体が協働で草刈りと火入れに取組む等、新たな体制作りが進みつつあります。

(3) 船上山地域

船上山地域では、船上山のふもとにある鳥取県立船上山少年自然の家が中心となり、学校団体や家族連れのハイキング、キャンプ、屏風岩でのロッククライミング、スノーシュー等、様々な体験プログラムを行っています。また、一向平^{いっこうがなる}から中国自然歩道を少し散策すると大山滝があり、多くの人々が訪れています。

船上山の屏風岩下の草原景観は、3年に1度の火入れによって琴浦町と地元森林組合が維持していますが、蒜山地域と同じく資金面や担い手不足による新たな体制作りが必要とされています。

また、大山滝周辺の登山ルートは地元の活動団体が中心となり、登山道の草刈や倒木の除去等の作業が定期的に行われています。



船上山少年自然の家での活動例

出典：平成 27 年度パンフレット表紙より

(4) 毛無山地域

毛無山山頂からの大山、蒜山、弓ヶ浜半島、さらには隠岐島を一望することができる 360 度のパノラマ眺望には人気があり、また、日本海側の気候を好む植物と太平洋側の気候を好む植物の両方が見られる珍しい場所でもあるため、それらを目的に登山する人々も多くいます。

毛無山地域の毛無山には、岡山県・鳥取県の両側から登山道が整備されており、比較的登りやすい白馬山と周回利用できる岡山県側からのルートが多く利用されています。江府町からの登山道は地元の活動団体が中心となって登山道保全作業が行われています。

しかし、人々の利用が進む一方で草原の面積は縮小しており、草原性の蝶であるウスイロヒョウモンモドキ（指定動物）や春植物を代表するカタクリが減少しています。これらの希少動植物の保全活動を地元活動団体が中心となって行っています。カタクリはこれまでの保全活動により徐々に増え、山頂付近のカタクリ群落は環境省による「かおり風景 100 選（毛無山ブナとカタクリの花）」に選出されています。

また、毛無山の西に位置する宝仏山は古くから信仰の対象となってきた山で、平成 14 年に大山隠岐国立公園に編入されました。地元の有志らで結成された地元活動団体が、自然に近い形での登山道整備を進めており、ブナ林やスギの人工林の中で素晴らしい森林浴が体験できるように定期的な手入れが続けられています。

(5) 三徳山地域

三徳山地域は古くから信仰の対象であり、特に三佛寺から投入堂（国宝）に続く登山道は修験道として利用・維持されてきました。しかし、近年、投入堂に続く行者道のかずら坂付近の浸食等が課題となっており、登山者の安全面、植生の荒廃等の懸念から保全活動を進める必要性が生じています。現在は、平成 15 年に設立された地元活動団体が中心となり、三徳山の植生調査・一斉清掃、草刈等の保全活動が行われています。

三朝温泉が平成 26 年に開湯 850 年を迎え、同年に三徳山地域が大山隠岐国立公園に編入され、平成 27 年には三徳山・三朝温泉が日本遺産に登録されたことを機に、観光地としての利用と自然環境の保全のバランスの検討が続けられています。



カタクリ



ブナ林



ウスイロヒョウモンモドキの保護巡視パトロール



宝仏山から見た大山



投入堂に続く登山道の保全・管理

第2章 大山・蒜山地域の現状

1. 自然環境に関する現状

キーワード

希少種・湿原・草原・人工林・ナラ枯れ/マツ枯れ・外来生物・野生鳥獣・後継者

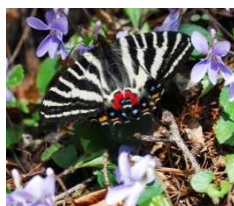
(1) 希少種の盗掘・乱獲【全地域】

カタクリ、サクラソウやナツエビネ等のラン科をはじめとする希少植物、ウスイロヒョウモンモドキ、ウラムスジシジミ（ダイセンシジミ）、ギフチョウ、ゼフィルスをはじめとする蝶類が、盗掘・乱獲により減少しており各地域で保全団体による保護活動が行われています。

しかし、盗掘・乱獲への対策は各地の団体ごとの取組への依存度が高く、大山・蒜山地域全体で連携した十分な体制が確立されていないのが現状です。



ウスイロヒョウモンモドキ生息状況
モニタリング作業（毛無山）



ギフチョウ



ウラムスジシジミ
（ダイセンシジミ）

撮影・提供 松岡嘉之氏

(2) 湿原・草原の縮小【大山・蒜山・船上山・毛無山】

大山地域（鏡ヶ成、桝水高原）、蒜山地域、船上山地域で、湿原と草原の縮小が進んでいます。

この原因として、湿原では、明治時代から戦前にかけて行われた鏡ヶ成の軍馬放牧地としての利用

や、内海^{うつみたわ}の道路造成による人為的な乾燥化等があげられ、草原では、生活様式の変化、維持管理者（火入れ、草刈等）の担い手不足があげられます。現在は、鏡ヶ成湿原では管理方針に基づく保全活動が、蒜山高原では火入れに基づく草原景観の維持活動が続けられています。今後、現在の湿原・草原範囲が維持され、さらに自然再生に結びつくような取組の継続及び体制づくりが必要とされています。

(3) 森林の荒廃及び景観の不調和【全地域】

拡大造林政策時に植えられた人工林について、適切な管理のもと健全な森林を形成している場所がある一方、十分な管理が行われず放置され荒廃の進む森林がみられます。

また、主要な利用拠点や展望台、大山パークウェイ等から望見すると、一面に広がるブナ林の中にスギ、カラマツ等の人工林が点在している場所があり、自然景観としては調和に欠けているとの指摘があ



十分な管理がされていない人工林

ります。現在、大山の横手道上では、自然景観の復元の観点から潜在植生であるブナ林へ樹種転換をする取組がすすめられています。

さらに、スキー場等においても利用者の安全に考慮しながらも、景観との調和に配慮した森林管理を図ることが必要との指摘もあり、人工林の適切な管理の推進に加え、生態系ネットワーク、生物多様性及び景観を考慮した森林管理が必要とされています。

(4) ナラ枯れ・マツ枯れ【全地域】

過去に三徳山地域でナラ枯れの被害が発生し、近年では大山地域（大山周辺）、蒜山山麓部で、ナラ枯れの被害の発生と拡大が見られます。また、その他の地域でも一部ナラ枯れ・マツ枯れが確認されており、カシノナガキクイムシ及びマツノザイセンチュウの樹木への侵入防止対策、モニタリング、倒れた枯損木の除去作業等の取組が、「鳥取県松くい虫防除連絡協議会」、「大山ナラ枯れ被害対策協議会」等の方針に基づき、各地域の関係団体により行われています。



ナラ枯れ防止のために
ビニールを巻き付けたミズナラ

(5) 外来生物の繁茂【全地域】

植物ではセイタカアワダチソウ、オオキンケイギク、オオハンゴンソウ、オオカワヂシャ、ワルナスビ等、鳥類ではソウシチョウが大山蒜山地域内で確認され、近年増加しています。セイタカアワダチソウについては、大山地域で生育分布調査が行われ、現在は秋の一斉清掃時に協働で除去活動が行われています。その他のオオバコ等、国内由来の外来植物についても、大山山頂の頂上保全活動時等に除去作業が実施され、桧水高原及び鏡ヶ成等でも地元団体と協力した除去作業が実施されています。



生育を拡大しつつあるオオキンケイギク
（森の国付近）

(6) 野生鳥獣の増加に伴う生態系被害(シカ・イノシシ)の恐れ【全地域】

ニホンジカ、イノシシの生息範囲と個体数が増加しており、三徳山及び大山東部の山麓部を中心に目撃情報が増加しています。特に最近では、鏡ヶ成等、大山周辺でもイノシシによる草地の掘り起しが見られ、景観資源としての価値の低下等が懸念されています。ニホンジカについては、大山環状道路付近でも確認されつつあり、大山の高標高域にいったん侵入すると、ユートピアや山頂周辺に広がる花畑等に被害が生じ、生物多様性や景観資源の劣化が生じる恐れがあります。



イノシシによる掘り起し跡(鏡ヶ成)

(7) 保全に関わる後継者不足【全地域】

大山蒜山地域では多くの保全活動、草原管理等はボランティア、地域住民により支えられてきました。しかし、いずれの地域においても、関係者の高齢化による後継者不足が課題となっており、新たな人材を獲得し、次世代の担い手育成のためノウハウを継承する情報共有の場が必要とされています。

2. 利用の質に関する現状

キーワード

通過型利用形態・歴史資源・ガイドの連携・地域ルール/マナー

(1) 通過型の利用形態【全地域】

大山蒜山地域には大きく5つの地域があり、それぞれに特色ある魅力が多くあります。現在、島根半島の美保関から米子を経由し大山から蒜山までを、大山山麓の連続する多様な風景を楽しむことができる「大山パークウェイ」が繋いでいるほか、その他の地域への車道も整備されており、それぞれの地域への自家用車によるアクセスは容易となっています。

しかし、気軽に訪問できるようになっている反面、目的地以外の地域や施設に立ち寄らない「通過型」の利用者も多いと考えられており、大山パークウェイを基軸とした各地域の連携、滞在型観光の推進を含めた複数の地域をめぐる魅力づくりが必要とされています。



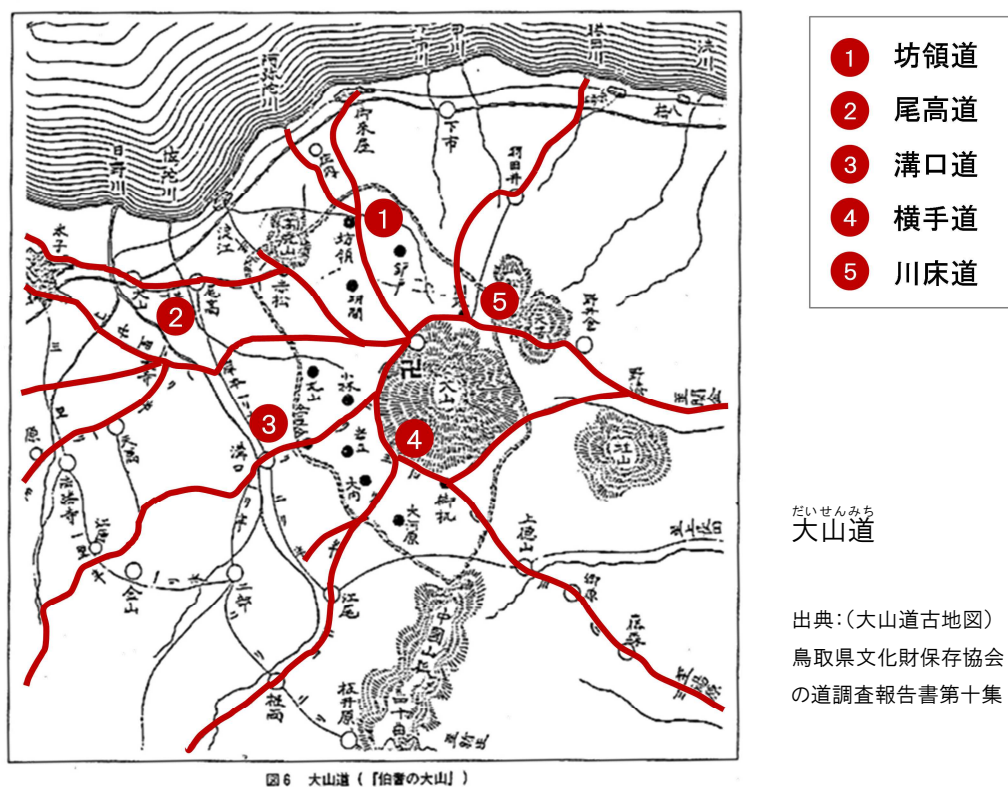
大山パークウェイ

「大山蒜山パークウェイ(蒜山^{かいげ}～皆生温泉)」と「美保湾パークウェイ(皆生温泉～美保関)」を合わせて「大山パークウェイ」と称する。

出典：大山パークウェイ「大山パークウェイマップ」 <http://web.sanin.jp/p/daisenking/pw/1/>

(2) 歴史資源の掘り起こし不足(歩道)【全地域】

大山の周辺には、「大山道^{だいせんみち}」と呼ばれ、かつて大山参りをはじめとした大山への巡礼、牛馬の道として利用されてきた古道があります。代表的には「坊領道^{ぼうりょうみち}」、「尾高道^{おだかみち}」、「溝口道^{みぞぐちみち}」、「横手道^{よこてみち}」、「川床道^{かわどこみち}」の5つのルートがあり、そのうち川床道の一向平から川床にかけてのルートは中国自然歩道の一部ともなっています。これらの歩道には、歩道とその周辺地域や施設にも歴史資源としての価値がありますが、それらが十分に活かされているとは言えません。今後、これらの歩道としての魅力をさらに向上させるため、過去に使用されていた道のルート調査等による新たな価値の掘り起こし、修復・整備による歩道の保全と新たな古道の復活、またそれらの情報発信が必要とされています。



(3) ガイドの連携及びニーズへの対応の不足【全地域】

各地域でエコツーリズム推進を含めたガイドの養成・活動が行われていますが、現在は地域ごとのガイド同士の情報交換や活動地域を越えたガイド間の情報交換はほとんど行われていません。

また、これまでの利用者のニーズは、団体ツアーへの同行とその時間管理を行うことが主でしたが、近年では少人数のグループへの同行、体験型企画、エコツーリズム、安全管理などガイドに対するニーズが多様化してきています。このため、利用者の利用形態の変化や多様なニーズに対応できるガイドの育成及び技術向上が必要となってきました。

(4) 地域ルール、マナーの不足【全地域】

大山隠岐国立公園での利用者のマナーは、どの地域においても概ね良好です。しかし一部では、利用時のルールや国立公園であることの周知が利用者に行き届かず、ゴミの放置、希少な動植物の持ち帰り等が見られることがあります。近年、大山で利用者とトラブルになっている事例とし

て、クマ鈴の利用方法、トレイルランニングの取扱い、ペットの持込み等があげられます。また、携帯トイレの利用についても全ての利用者に周知されていません。

こういったトラブルや新たな利用形態に対しては、大山蒜山地域での共通ルールや個別ルールの策定、利用者への情報提供のあり方を考えることが必要とされています。

3. 利用環境に関する現状

キーワード

車道・歩道・インバウンド・ユニバーサルデザイン・展望台

(1) 車道(標識類の不統一、老朽化、鍵掛峠の渋滞)【全地域、特に大山地域】

現在、各地域では国立公園の統一的な標識の設置が順次進められていますが、これまで標識類の設置は各地域で独自に行われていたものが多く、デザインの不統一が指摘されています。また、標識の老朽化も進行していることから、更新が必要な地域もあります。

さらに、紅葉シーズンには各地で交通渋滞が発生するため、特に大山地域の鍵掛峠では、マイカー規制による自動車利用の適正化の検討、三徳山では駐車場への適切な誘導が必要とされています。



紅葉シーズンの渋滞(鍵掛峠)

(2) 歩道(管理者不在の登山道、大山頂上碑、遭難の発生)【全地域、特に大山地域】

現在、公園計画に位置付けられている歩道のうち、公園事業者が執行している路線以外は、各地域で各団体が協力して管理を進めています。登山道のなかには管理者が不在となっている路線があり、特に行政界にまたがる登山道では管理主体を明確にすることも必要です。今後は、関係者が協働して「大山道」を含めた歩道を保全し、周遊性の高い歩道づくりを図ることが必要とされています。

大山では、頂上碑付近の崩壊が懸念されており、「大山の頂上を保護する会」や地元活動団体等が中心となり、弥山山頂におけるコモ伏せやヤマヤナギの植栽などの崩壊防止の取組が行われています。

また、大山縦走路では遭難事故が発生することもあるため、「大山遭難防止協会」では縦走禁止の呼びかけや冬期の定期的なパトロールを行うことで、遭難防止に努めています。



看板の重複設置・老朽化



ヤマヤナギの植栽(平成 22 年)

(3) 外国人利用者への対応の不足【全地域】

近年、境港への定期国際航路等の就航により、主に韓国からの外国人利用者が登山、サイクリングや観光目的で、大山及び大山寺周辺に多く訪れています。

今後さらに、境港にイギリスやフランスからのクルーズ船の寄港が増え、アジア圏以外からの外国人利用者も増加する見込みとなっています。

しかし、各施設のハード面の整備（標識類の多言語表記、外国語パンフレットや案内板の設置、洋式トイレの設置、Wi-Fi や両替設備の整備、公共交通機関を使用したアクセスの改善等）やソフト面の整備（外国語対応可能な常駐スタッフの配置、通訳案内士等のガイドの充実等）は十分とは言えず、各施設で対応が進められています。



境港に到着したクルーズ船

(4) ユニバーサルデザインの不足【全地域】

外国人利用者対応と併せて、大山蒜山地域を訪れるすべての人々にとって利用しやすい環境づくりが進められています。ピクトグラムによる分かりやすい看板の設置や、車椅子対応の園路整備、段差を減らした施設の整備などの対応を各施設で行っています。



多言語・ピクトグラムを取り入れた看板

(5) 展望台の魅力低下【全地域】

大山地域（烏ヶ山展望駐車場）、船上山地域（船上山北展望駐車場）、三徳山地域（投入堂遥拝所）等の道路沿線の展望台では、過去に植栽した人工林等の成長による景観阻害が著しく、「展望できない展望台」も存在しています。そのため、自然環境保全と公園利用のバランスのとれた通景伐採のガイドライン等のルール作りが必要とされています。また、公園利用者に対して大山蒜山地域全体の魅力的な展望箇所を発信する統一的な仕組み作りも必要です。



展望出来ない展望台（船上山）

4. 連携に関する現状

キーワード

周遊性の低下・地域の分断・連続性の希薄

(1) 周遊性の低下【全地域】

大山蒜山地域を訪れる観光客の滞在期間は比較的短く、日帰りから1泊2日程度が多いと言わ

れています。各地域をつなぐ車道は整備されているものの、各地を周遊する楽しみが少ないため、今後、例えば各地域にまたがる歴史的な古道である「^{だいせんみち}大山道」や、ロングトレイルの実現など、ゆっくりと自然に親しめるプログラムを用意することでガイドの需要や滞在型かつ周遊型の利用を高める工夫が必要とされています。

(2) 地域の分断【全地域】

大山蒜山地域に関わる 5 つの地域は、地理的にも、行政区画的にも分断されています。そのため、各地域で独自の取組が行われており、訪れる人々にとって連続した地域として認識しにくいと考えられます。

(3) 国立公園としての連続性の希薄【全地域】

地理、行政区画として各地域が分断されていることと関連し、国立公園としての連続性も希薄な傾向があります。例えば、道路・歩道、標識類のデザインや規模等のテーマを持った整備を進めることや各地域のガイドのネットワークを図ることによって、地域全体を 1 つの国立公園として連続性を示せる工夫が必要とされています。

5. 協働に関する現状

キーワード

一体性・統一方針・連携体制・連絡調整機能

(1) 国立公園としての一体性の欠如【全地域】

各地域には行政機関、民間企業、NPO、社寺、各種団体等の大山蒜山地域の利用と保全に関わる多種多様な団体がありますが、現在はそのほとんどが独自に取組を展開しており、相互の連携がみられません。また、公園利用者や地元住民にとって国立公園への認知度が低い地域も見られ、大山蒜山地域全域で国立公園としての一体性を高めていくことが必要とされています。

(2) 各地域をまたいだ総合的な統一方針の不備【全地域】

国立公園としての一体性の欠如の一因として、各地域をまたぐ共通の方針が十分に整備されていないことが挙げられます。国、県、市町村、活動団体等の方針を包括しつつ統一性のある方針づくりが必要とされています。

(3) 連携体制の不備【全地域】

登山道整備、施設管理、野生鳥獣対策、希少種の盗掘問題、遭難防止等の課題は、広域的であるとともに行政機関の枠を超えた対策が必要です。国、県、市町村、各種団体の連携体制を強化が必要とされています。

(4) 連絡・調整機能の不十分【全地域】

各地域、各団体が情報交換を行い、情報共有を図るため、各地域並びに県境を越えた協議の場が必要とされています。

第3章 大山蒜山地域の課題

1. 自然環境に関する課題

課 題

生態系及び生物多様性の劣化が進行

大山蒜山地域は、西日本最大のブナ林を始め、湿原や草原など良好な自然環境が維持されている場所がある一方で、希少種の減少、湿原・草原環境や森林環境の劣化、外来生物の繁茂など生態系及び生物多様性の劣化が進行しています。

希少種については、盗掘などの被害によりナツエビネ等の希少植物やウスイロヒョウモンモドキ、ウラムスジシジミ（ダイセンシジミ）、ギフチョウ等の蝶類が減少しており、監視体制の強化や具体的な保全措置が課題です。また、蒜山地域や毛無山地域においては、生活様式の変化等に伴い草原の人的な管理が行われなくなったことにより、フサヒゲルリカミキリやウスイロヒョウモンモドキ、サクラソウ等の希少動植物が絶滅の危機にあり、草原管理を担う後継者育成を含めた管理体制の構築が課題です。

湿原・草原環境については、生活様式の変化や人為的な改変により、湿原・草原の面積が減少するとともに、質的な劣化が懸念されることから、現在の湿原・草原範囲が維持され、自然再生に結びつくような取組の継続や湿原・草原管理の後継者育成を含めた管理体制の構築が課題です。また、森林環境については、管理が不十分な人工林において荒廃が進行している場所があり、またブナ林の中に人工林が点在する等自然景観としては調和に欠ける場所があります。さらに、従来からのマツ枯れの被害に加え、近年ナラ枯れの被害が増加しており、病虫害対策や人工林の適切な管理、生態系ネットワーク、生物多様性及び景観を考慮した森林管理が課題です。

外来生物については、特にセイタカアワダチソウ等の外来植物の繁茂が顕著であり、これまで地区毎の取組が行われているものの根絶には至っていないことから、広域連携による効率的駆除体制の構築と、効率的な駆除技術の確立が課題です。

その他、現時点ではまだ具体的な生態系被害は確認されていませんが、一部地域においてシカ・イノシシの生息及び農林業被害が確認されていることから、引き続き生息状況、被害の発生状況について注視していく必要があります。

2. 利用の質に関する課題

課 題

地域の資源が十分に活かされていない

近年、国立公園の利用形態や利用者のニーズが多様化し、このような変化に的確に対応して大山蒜山地域の利用促進を図っていくためには、より質の高い自然体験の提供が必要です。しかし、現在これらの資源が十分に活用されているとは言えません。

大山蒜山地域では、現在、通過型利用の定着により利用範囲が限定され、広域的な利用が図られていません。その原因として、他の利用拠点への誘導・案内が不十分なことや、「大山道」をはじめとする各利用拠点を結ぶ歴史資源が十分に活用されていないことが考えられます。このため、通過型利用から脱却した広域的な利用推進が課題です。

また、各地区のガイドについて、地区間、分野間の相互の有機的な連携が十分に図られているとはいえない状況にあり、利用者の多様なニーズに的確に対応できていない点があることから、ガイド間の連携強化及び技術向上が課題です。

さらに、利用にあたってのマナーやルールについて、十分な整備や周知が図られていないことにより、その資源が持つ本来の自然の価値や魅力を提供できていないことから、それぞれの地域に応じたマナーやルールの整備と周知が課題です。

3. 利用環境に関する課題

課 題

利用施設の整備・管理が十分ではない

近年、利用者層の多様化が進み、施設やサービスの質が重視される傾向にあります。このような状況の中で、様々な利用者層に対応でき、より安全で快適に利用できる環境整備が求められていますが、ハード面・ソフト面、共に現状においてこれらに十分に対応できていません。

ハード面については、施設の老朽化、樹木の生長に伴う展望阻害など、施設の維持管理に関する課題があり、特に施設の老朽化は安全管理にも直結することから適切な対応が必要です。また、外国人観光客や高齢者などへの対応として、多言語表記やユニバーサルデザインなど、多様な利用者層への対応の拡充も必要です。さらに、標識類の不統一や乱立もみられることから、わかりやすく快適な利用を促進するための対策も課題です。

ソフト面については、鍵掛峠の渋滞、管理者不在の登山道の取り扱い、遭難対策などが課題であり、安全で快適な利用を確保するための対策の検討が必要です。また、近年自転車利用が増加傾向にある中で、積極的な誘致を含め、ルールや仕組み作りの検討が課題です。

4. 連携に関する課題

課 題

利用拠点の分断による一体性の欠如

大山蒜山地域は、地理的に5つの地域に分断されていることから、地域の事業者においても、公園利用者においても1つの地域としての認識が低く、このことが地域の一体性、国立公園の連続性を欠く要因となっており、さらに、周遊型の利用促進の弊害ともなっています。

今後、この物理的な弊害を乗り越え、個性ある5つの地域それぞれの魅力向上を図り、さらに、これらの地域を結ぶ沿線の魅力向上を図ることで5つの地域を1つに結び、新生「大山蒜山地域」として、新たな地域ブランドを創造することが課題です。

5. 協働に関する課題

課 題	各地区間の協働体制が十分ではない
-----	------------------

前述の1から4までの課題は、5つの地域の関係者が協働して取り組むことで、より効率的で、高い効果を得ることが期待できます。

しかし、これまで関係者の協働の枠組みはありませんでした。今後、本協議会において関係者間の連携を深め、本ビジョンの実現に向けた協働体制の強化が課題です。

地域の現状と課題を項目ごとに整理すると、次のようになります。5地域とも分類ごとに若干の違いがありますが、共通する課題が多くあります。

● 大山・蒜山地域における課題一覧（地域別）

分類	課題	大山地域	蒜山地域	船上山地域	毛無山地域	三徳山地域
自然環境	希少種の盗掘、乱獲	○	○	○	○	△
	湿原・草原の縮小	○	○	○	△	—
	森林の荒廃及び景観の不調和	○	○	○	○	○
	ナラ枯れ・マツ枯れ	○	△	○	△	○
	外来生物の繁茂	○	△	△	△	△
	野生鳥獣の増加に伴う生態系被害(シカ・イノシシ)の恐れ	○	○	○	△	○
	保全に関わる後継者不足	○	○	○	○	○
利用の質	通過型の利用形態	○	○	○	○	○
	歴史資源の掘り起こし不足(歩道)	○	○	○	△	△
	ガイドの連携及びニーズへの対応不足	○	○	○	○	○
	地域ルール、マナーの不足	○	△	△	△	△
利用環境	車道(標識類の不統一、老朽化、鍵掛峠の渋滞)	○	○	○	○	○
	歩道(管理者不在の登山道、大山頂上碑、遭難の発生)	○	○	○	○	○
	外国人利用者への対応の不足	○	○	○	○	○
	ユニバーサルデザインの不足	○	○	○	○	○
	展望台の魅力低下	○	○	○	△	○
連携	周遊性の低下	○	○	○	○	○
	地域の分断	○	○	○	○	○
	国立公園としての連続性の希薄	○	○	○	○	○
協働	国立公園としての一体性の欠如	○	○	○	○	○
	各地域をまたいだ総合的な統一方針の不備	○	○	○	○	○
	連携体制の不備	○	○	○	○	○
	連絡・調整機能の不十分	○	○	○	○	○

○：課題に合致 △：課題に少し合致 —：課題に合致しない

第4章 共通理念

大山蒜山地域の新たな魅力の創生に向けて

「～つなぐ、つながる～ 地域力を活かした多様性あふれる公園づくり」

雄大な山岳地形と、その山麓に広がる広大なブナ林などで構成された大山蒜山地域の豊かな自然環境は、人と自然の関わりの中で個性あふれる5つの地域を生み、それぞれ特有の自然環境を活かしながら、独自に固有の文化を育み、発展させてきました。

これらの地域は、山岳信仰を通じ、大山から四方に延びる「^{だいせんみち}大山道」により地域と地域を結び、人と人が出会い、つながり合うことによって、大山蒜山地域の歴史と文化を形成してきました。

しかし、近年の多様化・複雑化した社会環境の中で、この「つながり」が見えにくくなっています。生態系及び生物多様性の劣化、利用者の減少という2つの大きな課題に対応していくためには、再びこの「つながり」を呼び起こし、5つの地域の連携を再構築していかなければなりません。

大山蒜山地域では、これまで多様な主体による様々な取組を地域ごとに進めてきましたが、今後、各主体が地域の枠を越えてつながり、それぞれの取組を広域的につなげていくことにより、取組の効率化が図られ、その効果を相乗的に高めていくことが可能になります。

この点を踏まえ、まずは5つの地域がそれぞれの個性を磨くことにより地域ごとの魅力の向上を図り、さらに、各地域を結ぶ沿線の魅力の向上を図ることにより5つの地域を1つに結び、「大山蒜山地域」全体として新たな魅力の創生を目指していく必要があります。

また、これらの取組を進めるに当たっては、大山蒜山地域は生態系ネットワークを通じて周辺の地域とも深く結ばれており、相互に関係しあいながら豊かな自然環境を維持し、互いに地域の重要な生活基盤を形成していることも認識しておく必要があります。

今後、この「共通理念」を、大山蒜山地域に関わるより多くの主体と共有し、関係者が連携した取組を推進します。

第5章 基本方針

大山蒜山地域の各地域の現状と課題を踏まえ、基本理念に沿って以下を基本方針とします。

1. 守る

基本方針① 「守る」

生態系及び生物多様性の保全・復元・維持を図る

地域の自然環境を支える生態系及び生物多様性は、地域の自然とそこに暮らす人々との長い関わりの中で築き上げられたかけがえのないものであり、地域の歴史そのもので、それ自体に大きな価値を有しています。さらに、この生態系及び生物多様性は、人々の生活と結びついて地域固有の文化を生み、地域住民の生命と豊かな文化を支える生活基盤として機能しています。

大山蒜山地域においても、大山などの雄大な山岳とその裾野に広がる広大な平原で構成された自然地形が存在し、その上に西日本最大の規模を誇るブナ林を中心とした豊かな生物相が成立しています。さらにその自然地形と生物相を活かし、山岳信仰等の文化や牧野等の土地利用が成立し、これらの自然と人々の生活が融合した地域固有の豊かな生態系、生物多様性が形成されています。

しかし、近年、生活様式の変化に伴う草原の減少や、外来生物の侵入による植生攪乱など、地域の生態系及び生物多様性が脅かされています。これらは、従来型の規制的手法だけでは対応できず、具体的な保全対策を行うなど、より能動的な対応が求められます。

このため、今後、地域毎に関係者が連携した積極的な取組を推進し、さらに、各地域が広域的に連携することにより、大山蒜山地域全体の保全に繋げていきます。そのためには、まずは関係者が課題を共有し、既に行われている取組の輪を少しずつ広げていくことから始めます。

先人たちが大切に守り、引き継いできた、かけがえのない地域固有の生態系及び生物多様性を守り、末永くその恩恵を享受できるよう後世に受け継いでいくことは、現代を生きる私たちの重要な責務であることを十分に認識し、今後も関係者が連携した取組を推進します。

2. 活用する

基本方針② 「活用する」

地域資源を活かした質の高い利用を促進する

風景にはそれぞれ意味があり、その成立の過程を紐解きながら、現在の風景に至った意味を理解することで、視覚的な風景に心理的な深みを与え、その価値をさらに高めることができます。また、風景に意味を与えることは、他地域の類似の風景との差別化を図り、個性、独自性を見出すことができます。

しかし、大山蒜山地域には優れた景観資源が多数存在しますが、この点において既存の資源が十分に活かしきれているとは言えません。今後は、その風景が辿った歴史を紐解き、ストーリー性を持った質の高い自然体験の提供を進めます。

また、大山蒜山地域には、大山の展望や草原景観など共通・類似の資源が地域ごとに存在しますが、この地域ごとの共通・類似の資源について、相互に関連性を持たせ、それぞれの特徴をアピールすることにより他地域への誘導を促し、周遊型利用の促進に繋げていくことも期待できることから、広域利用を視野に入れたテーマづくりも併せて進めます。

同時に、このストーリー性・テーマ性をもったプログラムづくりには、一定の技術を有する人材が不可欠であることから、今後これらの人材育成に努めるとともに、これらの取組を推進するため、関係する団体間の連携、地域間の連携を図りながら、地域資源を活かした質の高い利用を推進します。

3. もてなす

基本方針③ 「もてなす」

快適な利用環境の整備を推進する

近年、エコツーリズム、産業観光等のニューツーリズムが浸透しつつある中で、利用者層の多様化が進み、特に、最近では外国人観光客が増加傾向にあります。このため、様々な利用者の視点に立ち、不便、不安、障害を解消した、安全で快適な質の高い利用環境の整備が求められています。

しかし、現状において、これらについて十分な対応が図られているとは言い切れず、また、一部においては施設の老朽化や管理不足による利用施設の質の低下も散見されます。

このため、多言語表記を始めとするわかりやすい誘導案内や、利用実態に応じたユニバーサルデザイン化を進めるなど、幅広い利用者層に対応した、ストレスのない安全で快適な利用施設の整備を推進します。

同時に、利用施設の清潔の保持、展望施設の展望の確保、幹線道路等の道路沿線の魅力向上など、既存施設の適切な維持管理により利用環境の質の向上を図るとともに、持続的な維持管理を図るため、関係者が連携した管理体制の整備を推進します。

さらに、交通渋滞の緩和や山岳地域の遭難防止を図るためのルールづくりを進めるとともに、隣接地域と連携した広域的な管理体制の整備を推進します。

第6章 対策の方向性

共通理念及び基本方針に基づき、具体的に以下の項目について関係者が協働して取り組みます。

1. 守る -生態系及び生物多様性の保全・復元・維持を図る

① 希少種の保全・保護地域の適切な管理

- 生態系を保全し、希少種の盗掘防止を図るため、大山隠岐国立公園の指定植物の見直しを行うとともに、関係者が協働で植物・蝶類の盗掘・密猟防止パトロール、普及啓発活動の取組を進め、希少種並びに希少種の生育環境の保全を目指します。

② 湿原・草原の保全

- 湿原植物を保全し、乾燥化を防ぐため、湿原の管理方針に基づき、同方針により関係者が協働で順応的管理に基づく取組を進め、湿原の生物多様性を含めた保全を目指します。
- 草原景観を維持し、火入れの継続を図るため、火入れ箇所の変遷、生物多様性を踏まえた優先度評価の実施、地元主体の体制を継続する取組を進め、産業、エコツーリズム、郷土教育に結びつくよう協働で作業する体制づくりを目指します。

③ 人工林管理・自生種・天然林への樹種転換

- 人工林の適切な管理及び天然林への適切な樹種転換を行うため、人工林の間伐、遺伝的多様性を踏まえた自生種の植樹（ブナ等）を進めるとともに、所有者に対して人工林の適切な管理の必要性等を啓発し、適切な森林管理を促す取組を進め、生態系、生物多様性、景観との調和を踏まえた樹種転換、森林の適切な管理を目指します。

④ ナラ枯れ・マツ枯れ対策

- ナラ枯れの生態系被害の拡大を防ぐため、大山を中心として個別対応型協議会の対策方針に基づいたナラ枯れ対策（伐倒、燻蒸、樹幹注入、モニタリング）の取組を進め、特別保護地区等、生物多様性及び景観資源として重要な場所への新たな被害拡大防止を目指します。
- マツ枯れの生態系被害の拡大を防ぐため、マツ枯れ対策（抵抗性マツの植栽、伐倒、燻蒸、樹幹注入、モニタリング）の取組を進め、歴史的な資源である大山周辺のマツ（大山並木松を含む）の保全を目指します。

⑤ 外来生物対策

- 国立公園内の生態系の保全を図るため、公園内に生育している外来生物の状況を把握するとともに、科学的知見を踏まえた優先種及び優先場所の決定や駆除マニュアルの策定、防除対策（外来植物対策マットの試験的施工等）の取組を進め、各主体との情報共有や連携を図りながら能動的な管理に基づく風致景観の保全を目指します。

⑥ 野生生物対策

- 国立公園内の生態系保全を図るため、ニホンジカ、イノシシの目撃情報集約、自動撮影カメラによる生息動態等把握調査、生態系被害の集約、個体数管理、先進事例の把握と共有、狩猟者育成、ジビエの利用推進の取組を進め、公園内外を含めた関係機関が連携した能動的な管理に基づく風致景観の保全を目指します。

⑦ 保全管理に関わる担い手育成及び技術講習会の開催

- 伝統及び保全管理技術の伝承を含めた人材育成を図るため、登山道保全技術講習会の実施、植生復元、外来生物等、個別テーマに沿った講習会の取組を進め保全管理に関わる担い手育成を目指します。

2. 活用する - 地域資源を活かした質の高い利用を促進する

① 滞在型の利用

- 集団施設地区等の地域経済の向上を図るため、宿泊施設の連携、ナイトツアー等のプログラム発掘を行い、エコツーリズムとの連携の取組を進め、地域全体で滞在型利用が増え、にぎわいを創出することを目指します。

② 周遊型の利用

- 地域ごとの利用拠点の質の向上を図るため、ハード・ソフトの両面から利用拠点の質の向上に努めるとともに、利用拠点を行動起点として周遊利用、さらには道（車道・歩道）をキーワードに大山蒜山地域でより深い周遊利用をする取組を推進し、地域の魅力を体験できる周遊利用及び地域一帯で自然環境情報、道の情報、見所等を一元的に発信することを目指します。

③ 地域資源の発掘

- 大山蒜山地域の各地域から大山に通じる道の歴史資源を掘り起こし、価値の共有を図るため、関係者で「大山道^{だいせんみち}」を調査し、発掘した資源を関係者で共有、情報発信する取組を進め、かつての大山の価値を再認識することを目指します。

④ エコツーリズムの推進・ガイドの連携及び育成

- 地域の宝を磨きあげ、新たな魅力の創出を図るため、エコツーリズム国際大会の理念や体験プログラム等を全体に浸透する取組を進め、地域資源の発掘（宝探し）、ツアーの掘り起こしを行い、関係者一体となったエコツーリズムの推進を目指します。
- 大山蒜山地域で活動するガイドのネットワーク化及び技術の向上を図るため、ガイド同士の情報共有の場の設置、エコツーリズムガイド人材育成、地元学の開催等、ガイドが郷土を知るための取組を進め、地元ガイドが連携し、技術向上を目指します。

⑤ 地域ルール・マナーの策定

- ガイド、公園利用者とも山域の地域ルール・マナーを守り、自然環境保全を図るため、大山等での新たなニーズ、利用形態を踏まえ、トレイルランニングの取扱い、ペットの持込み、クマ鈴の利用、携帯トイレの利用等、地域の望ましいルール・マナーを関係者協働して策定する取組を進め、適切な公園利用を目指します。

3. もてなす - 快適な利用環境の整備を推進する

① 車道

- 自然環境の負荷の軽減及び快適な利用を図るため、鍵掛峠周辺においてマイカー規制の社会実験を実施し、乗換え拠点等を含めた歩くガイドツアー、自転車利用など新たな利用形態のニーズの対応の取組を進め、関係者で社会実験の評価も行いながら自動車利用の適正化を目指します。
- 周遊性の向上を図るため、主要な利用拠点に統一的な標識の検討を進め、公園に訪れた利用者が統一感を持ち、快適に利用できることを目指します。
- 大山パークウェイ沿線の良好な景観づくりを図るため、主要な視点場の保安全管理、景観創出、看板等の統一、歩く利用に応じた整備、情報発信等の取組を進め、沿線を通じて国立公園としての一体感の創出を目指します。

② 歩道

- 標識類の統一・多言語化を図るため、自然公園等施設技術指針を参考に統一したガイドライン作成の取組を進め、公園に訪れた利用者が統一感を持ち、快適に利用できることを目指します。
- 管理者が決まっていない登山道の保全作業を図るため、既存協議会の位置付け等も総合的に勘案し、公園利用者の視点に立った登山道保全の取組を進め、大山頂上碑の移設等、官民の関係者が協働で作業できる体制づくりを目指します。
- 公園利用者に対して登山道の情報やレベル等、適切な情報発信を図るため、受益者負担のあり方の検討及び利用ゾーニングを含む登山道のグレーディング等の検討の取組を進め、遭難事案の減少、登山届の提出率の向上を目指します。

③ インバウンド対応

- 外国人利用者の適正な利用の推進を図るため、国立公園の認知度向上を図るためのプロモーションの推進、SNSを通じた情報発信、施設・標識類の多言語化、ピクトグラムを導入、エコツーリズム等の体験型プログラムの情報提供、通訳案内士等のガイド養成の取組を進め、受入れ体制の構築を目指します。

④ ユニバーサルデザイン

- 安心・安全な施設整備を図るため、利用拠点や集団施設地区を中心にユニバーサルデザインの導入の取組を進め、適切な維持管理を行い、多様な利用者が快適に公園を利用することを目指します。

⑤ 視点場抽出・景観回復

- 良好な景観ポイントを公園利用者に対して積極的に情報発信を図るため、国立公園内の魅力的な展望地を関係者で抽出する取組を進め、関係者共通の地図の作成、施設整備等に反映することを目指します。
- 展望地の維持管理、再生事業を図るため、自然環境の保全と利用のバランスを踏まえた周辺樹木の剪定・伐採等の管理方針を定めた統一的な通景伐採のガイドラインの作成を目指します。

第7章 各主体の役割

大山蒜山ビジョンの実現に向けて、各構成員はそれぞれ以下の役割を担い、協働・連携した取組を推進します。

1. 国の役割

(1) 環境省の役割

環境省は、国立公園の設定者としての立場から、国立公園を適正に保全し適正な利用の増進を図るため、以下の役割を担います。

- ① 大山隠岐国立公園大山蒜山地域連絡協議会の事務局として、同協議会の運営に必要な事務を行う。
- ② 大山隠岐国立公園大山蒜山地域の実情に即し、公園計画、管理運営計画の定期的な見直しを行う。
- ③ 自然公園法に基づく国立公園内の行為規制等の事務を適切に執行し、優れた自然風景地を維持する。
- ④ 関係者と連携を図りながら、国立公園の保護に関する事業を実施するとともに、適正な利用の推進の観点から、基幹的な利用施設の整備・維持管理を行う。
- ⑤ 関係者と連携を図りながら、国立公園の意義や地域の価値に関する普及啓発、環境教育を行う。また、利用者に対して、利用に有益な情報の提供や利用の際のルールなどについての積極的な広報を行う。
- ⑥ 関係者と連携を図りながら、国立公園の景観や自然環境の状況、国立公園の利用状況について、定期的な巡視や必要に応じ詳細な調査等を行うことにより状況の把握に努める。また、必要に応じその結果を公表する。
- ⑦ NPO 等の活動及び企業等の社会貢献活動が行いやすいよう、積極的な広報、活動メニューの提供等の条件整備に努める。

(2) 環境省以外の国の機関の役割

国（環境省以外）は、それぞれの省庁の設置目的に応じ、森林、農地、流域の保全、利用に不可欠な車道など、国立公園に関わりの深い施策も行なわれていることから、各省庁の所管法に基づく計画策定・見直しに当たり公園計画との相互の整合を図るとともに、国立公園行政と相互に連携した取組を推進する役割を担います。

特に、国立公園内の広大な森林を所管する林野庁は、生態系の保全、生物多様性の保全の分野において共通する部分が多いことから、森林法に基づく計画の策定・見直しや関係施策の立案及び実施にあたり、国有林野行政と国立公園行政が相互に連携を図ることにより、両行政の相乗的な発展を推進する役割を担います。

2. 地方公共団体の役割

都道府県及び市町村は、地域の基本的な行政サービスとしての管理運営を担うとともに、地域の環境保全及び地域振興（観光振興を含む。）を図る立場から、国立公園を適正に保全し適正な利用の増進を図るため、以下の役割を担います。

- ① 大山隠岐国立公園大山蒜山地域連絡協議会の構成員として協議会に出席し、各種取組について情報提供を行うと共に、関係者との連絡調整を行う。
- ② 地域の環境保全及び地域振興（観光振興を含む。）等の各種計画の策定・見直しにあたり、本ビジョンとの整合を図るよう努める。また、関係施策の立案及び実施にあたり、本ビジョンとの連携を図るよう努める。
- ③ 自然公園法第70条に基づく法定受託事務について、同法に基づく国立公園内の行為規制等の事務を適切に執行し、優れた自然風景地を維持する。
- ④ 関係者と連携を図りながら、国立公園の保護に関する事業を実施するとともに、適正な利用の推進の観点から、利用施設の整備・維持管理を行う。
- ⑤ 関係者と連携を図りながら、国立公園の意義や地域の価値に関する普及啓発、環境教育を行う。また、利用者に対して、利用に有益な情報の提供や利用の際のルールなどについての積極的な広報を行う。
- ⑥ 関係者と連携を図りながら、国立公園の景観や自然環境の状況、国立公園の利用状況について、定期的な巡視や必要に応じ詳細な調査等を行うことにより状況の把握に努める。また、必要に応じその結果を公表する。
- ⑦ NPO等の活動及び企業等の社会貢献活動が行いやすいよう、積極的な広報、活動メニューの提供等の条件整備に努める。

3. 学識経験者の役割

研究者等の学識経験者は、研究等の活動を通じて長期的な視点を踏まえた自然環境の把握や適正利用の推進に関し新たな知見を導き出すなど、大山蒜山地域における国立公園の適正な保全及び利用の推進に重要な役割を果たしています。

今後も、地域の専門機関、ビジターセンター等を含めた多様な主体と連携を深め、研究活動で得られた情報の提供や、専門的見地から国立公園の生態系や管理方針等への適切な助言・政策提案を行うなど、国立公園管理の重要なアドバイザーとしての役割を担います。

4. 各種協議会、NPO法人、民間企業、地域の事業者等の役割

各種協議会、NPO法人、民間企業、地域の事業者等は、大山蒜山地域において希少種や湿原・草原等の保全、周遊型の利用向上、エコツーリズムの推進等、様々な活動を通じて国立公園の適正な保全及び利用の推進に重要な役割を果たしています。

今後も、自然環境の保全、適正な利用の推進に関する様々な取組を関係者と協働して推進し、国立公園管理の重要なサポーターとしての役割を担います。

参考:ビジョン作成に向けた意見交換会

1. 意見交換会の開催

(1) 開催の目的

- 本ビジョンの作成にあたり、事前に大山蒜山地域の5つの地域にて意見交換会を開催しました。
- 意見交換会はワークショップ形式で行い、「どんな大山隠岐国立公園にしたいか」、「大山蒜山地域の課題は何か」、「将来に残したい地域の宝は何か」を参加者全員で考え、最終的に「5つの地域のキャッチコピー」を各地域で考案しました。キャッチコピーには、それぞれの地域の個性と特徴が反映されており、各地域が目指すべき方向性が工夫を凝らした言葉で表現されています。
- キャッチコピーの作成過程では、皆さんから様々なご意見が出ました。本ビジョンでは、それらのご意見をビジョン作成時に素材として活用しています。
- 意見交換会の参加者からは、「多くの意見が聞けて良かった」、「新しい発見、出会いがあった」といった感想が多く寄せられました。意見交換会を通して生まれた新たなつながりが、今後の大山隠岐国立公園大山蒜山地域の新たな活動のスタート地点となることを願っています。

(2) 開催概要

- 目的： 大山蒜山地域ビジョンの作成に向け、地域の課題を関係者で掘り起し、共有する
- 開催地： 大山隠岐国立公園大山蒜山地域内の5つの地域
(大山地域・蒜山地域・船上山地域・毛無山地域・三徳山地域)
- 開催時期： 平成26年11月
- 参加者数： 総勢93名（※複数地域への参加者を含む）
- 参加団体数： 全47団体

鳥取大学／環境省中国四国地方環境事務所米子自然環境事務所／近畿中国森林管理局鳥取森林管理署／近畿中国森林管理局岡山森林管理署／鳥取県西部総合事務所生活環境局／鳥取県中部総合事務所生活環境局生活安全課／鳥取県日野振興センター日野振興局地域振興課／鳥取県米子県土整備局／鳥取県立大山青年の家／新庄村総務企画課／岡山県美作県民局森林企画課／岡山県環境文化部自然環境課／八橋警察署／倉吉市建設部景観まちづくり課／琴浦町商工観光課／琴浦町教育委員会社会教育課／伯耆町商工観光課／大山町観光商工課／大山町教育委員会社会教育課／大山自然歴史館／三朝町企画観光課／三朝町教育委員会／真庭市蒜山振興局総務振興課／琴浦町観光協会／三朝温泉観光協会／大山町観光協会／(一社)大山観光局／(一財)自然公園財団／(公社)大阪自然環境保全協会／大山・中海エコツーリズム協議会／新庄自然保護連絡協議会／三徳山を守る会／サントリーホールディングス(株)エコ戦略部／國六(株)／重井薬用植物園／休暇村奥大山／休暇村蒜山高原／奥大山スキー場／グラウンドワーク大山蒜山／NPO法人日本野鳥の会鳥取県支部／米子野鳥保護の会／蒜山ガイドクラブ／ふるさと真庭清流自然学校／津黒いきものふれあいの里友の会／森の国／ごうぎんすぎの子会／三徳山三佛寺(輪光院・正善院)（※敬称略）



意見交換会の様子(大山地域)

2. 意見交換会の結果

地域の宝：1グループにつき3つまで将来に残したい宝を提案。	
大山地域	■ 山頂碑・船上山の草原・松並木 ■ ブナ樹林帯(西日本でも最大規模を誇る 大山を守っている)・大山の歴史／的資産(かつて存在した寺院跡の遺構保全)・大山登山道 ■ 烏ヶ山のブナ巨木林(御机の棚田景観)・船上山の独特な植生・甲川に代表される溪流の美しさ ■ 大山の歴史・中国地方最大のブナ林・大山の景観/周辺からの景観 ■ 山頂・大山道(古道)・ブナ林 ■ 鍵掛峠から小柳分れ間の歩道・大山寺地区全域・大山頂上
船上山地域	■ 船上山の草原・大山滝・ブナ林 ■ 大山滝:景勝地(春夏秋冬)が最高・船上山行宮跡:後醍醐天皇が約80日過ごされた場所・船上山屏風岩(雄滝、雌滝)
蒜山地域	■ サクラソウ・フサヒゲルリカミキリ・天谷湿原 ■ 鳩ヶ原草原の景観・湿原植生・天谷川のカワシンジュガイ ■ 蒜山三座の牧野景観・オオサンショウウオの棲む河川景観・半自然草原
毛無山地域	■ カタクリ・ウスイロヒョウモンモドキ・金ヶ谷山から朝鍋鷲ヶ山 ■ ウスイロヒョウモンモドキ・ブナの原生林(毛無山)・ブナの二世林(宝仏山) ■ カタクリ・毛無山山頂からの景色・自然保護活動をする人(特に草刈り)
三徳山地域	■ 自然・文化財・行者道 ■ 歴史・文化・自然(水など含めて)・食(トチモチ・豆腐など)

キャッチコピー：1グループから1つずつキャッチコピーを提案し、地域によって地域全体で1つのキャッチコピーを選出。		
	地域のキャッチコピー	選出されなかった候補キャッチコピー
大山地域		「神在します 1300年の物語」 「ブナの森 水の山」 「おいでください」 「ーブナの森ー 北の白神、西の大山」 「1300年前からブナの森にタイムスリップ」 「ゆうゆうツーリズム大山」
船上山地域	「大な山に船がある 滝がある」	「滝」
蒜山地域	「人と自然がつながる 千年の草原、万年の山なみ」	「草原の宝を守ろう」 「草原の風に吹かれてのんびりゆったり～太古の湖底に広がる蒜山高原」
毛無山地域	「日本海・太平洋 ブナの森でこんにちは」	「神代より古い森」 「自然銀行」
三徳山地域		「絶壁に宿る神仏に会いに行こう」 「愛に行きたい 歴史と自然美の織り成す奥山」